

### 2022年度 学校自己評価シート（慶應義塾志木高等学校）

目指す学校像	独立自尊の風風を養い、自主性のある、品格の高い、明るい塾生を育成する教育を行う。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基礎的な学問の習得</li> <li>2 個性と能力をのばす教育</li> <li>3 学校行事とクラブ活動の充実</li> <li>4 開かれた学校づくりの推進</li> </ol>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇談会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者	6名
事務局（教職員）	1名

学校自己評価			
2022年度 目標		2022年度 評価 (2023年3月31日現在)	
番号	現状と課題	評価項目	達成状況
1	<p>将来、社会の各分野で先導者として活動するため、また慶應義塾大学に進学する前段階として基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を理解させるとともに、自主的に学習するための指導を実施</p>	<p>基礎的な学問を習得させ、学問・研究の必要性を理解させるとともに、自主的に学習するための指導の実施</p>	<p>【基礎的な学問の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人に教員の目が届くと同時に、生徒同士の多様な「交際」の場も確保するため、2年生のクラス編成を従来の6クラスから8クラスに変更し、1クラスあたりの人数を30～31名とした。</li> <li>・生徒・教員ともにアンケートを実施し、少人数適正規模教育の有効性を確認できた。</li> <li>・1年の歴史総合(2クラス)では、各地の美術館・博物館で開催されている展覧会を随時紹介し、自由課題としての展覧会評の著述を通じて、多様な歴史資料に触れるきっかけと、レポート作成の方法を学ぶ機会を提供した。</li> <li>・2年の現代文Aでは、近代文学を思想史・政治史と関連させて同時代を多角的に考察した。</li> <li>・2年の古典A(6クラス)では、教室での学びとともに、伝統文化の体験を重視した。7月には、七夕に関する漢詩・和歌を学んだ上で、伝統芸能「詩舞」の師範・見城星梅月氏を招聘。七夕の漢詩・和歌をテーマにした舞を鑑賞し、生徒にも詩舞を体験してもらった。10月には、お香文化や香りが登場する古典作品を学習した後、本格的な伝統香料を用いて、生徒一人一人にお香(匂い袋)を調合してもらった。</li> <li>・3年の日本語各論では、宮澤賢治や高村光太郎、太宰治など、3年見学旅行と関連する授業計画を1年間通して立て、旅行で関連する文学館施設や関連する場所を訪れて立体的に授業を組み立てた。</li> <li>・2年の日本語表現では村上春樹を取り上げ、夏休みの課題として早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)を訪れる課題を出し、収穫祭では春樹文学に関わる壁新聞作りをした。また、同文学館の助教である栗原悠氏に本校での講演を依頼し、受講者以外の生徒にも、文学資料の収集・保存や存命の作家の文学館があることの意義について理解を深める機会を設けた。</li> <li>・2年の世界史B(4クラス)では、昨年度に引き続き、Power PointやGoogle Classroomの積極的活用を通して、生徒の歴史への関心惹起と行動変化(自発的に関連書籍やその抜粋を読む等)を促した。</li> <li>・3年の日本史B(3クラス)では、レポート課題を通して、国内外に残る歴史的な文化財について、主体的に考える機会を提供した。</li> <li>・3年生の日本史B(3クラス)では、通常授業に加えて、Google Classroomを活用した課題によって基礎知識の定着を図った。加えて、恒例の古地図散策課題により、身近な地域に根ざした歴史についても主体的に考える機会を提供し、特設コーナーの設置など本校図書館の協力を仰ぎつつ、各種文献や関連サイトの利活用を促した。なお、古地図散策課題の成果の一部については、校内誌『樺』第31号に掲載した。</li> <li>・2012年度より、3年生物の授業(単元:進化と系統)の一環として、校内自然観察会のインストラクターを希望した生徒への集中講座と観察会におけるインストラクションを実施してきた。しかし、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大を受け、自然観察会自体を開催中止とした。</li> <li>・オンライン多読システムに加え、図書館と語学教室に適宜洋書を購入して生徒に授業内外で多読に取り組むよう促している。その結果2022年4月から12月までの本校図書館の全貸出数4,724冊のうち、洋書の占める割合が3,378冊となった。本校図書館の全貸出数の約71%を洋書が占めているところから、自律的に英語多読を楽しむ生徒が増えてきていると考えられる。また、2022年度卒業生について外部のテスト(GTEC)の結果を確認したところ、高校在学中における英語4技能の伸び幅が学年平均の伸び幅の1.5倍～2倍と大きかった層にいる生徒たちは、多読の読了冊数・読了語数とともに際立って多いことが判明した。自ら楽しみながらたくさん読んだ生徒は、外部テストでも成績が上がりやすい傾向があることを確認した。今後も自律した学習者が増えるよう支援する。</li> <li>・『樺』第31号を発行して、部活や生徒会などの活動報告および授業などで作成した作品やレポートの発表の場を生徒に提供し、教員はその指導を行なった。</li> </ul> <p>【必修科目】</p> <p>←各部会ごとの達成状況</p>

学校関係者評価	
実施日 2023年5月6日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
2年時に6クラスから8クラスとすることで、先生及び生徒間の関係がより一層親密となり、中休みしやすい2年生の学生生活に刺激にもなり、大変有意義な1年間になったようです。	
塾高に比して、少人数教育が志木高の特色。通常規模のクラスよりきめ細かい指導目配りの効く少人数編成をぜひ継続拡大していただきたいと思ひます。	
展覧会を通じて、生徒たちはより幅広い視野を持つことができ、文化や歴史への深い理解を促進することができたと思ひます。また、レポートの作成を通じて、自己表現力や論理的思考力を養うことができ良かったと思ひます。	
現代文、古典、日本語表現、世界史、等いずれの授業も、よく練られた授業内容で、生徒の好奇心を刺激し続けるような内容であったようで感謝しております。	
受験に捉われぬ、一貫校としてのメリットを最大限に活かしている学校と感じております。	
見学旅行や学校外の見学等の組み合わせによる授業・課題は、生徒の印象にも残りやすく有効に活用いただきたいと思ひます。	
多読による英語4技能の伸び幅が学年平均の1.5倍～2倍である層の生徒たちの成果が際立って多いことが素晴らしいと思ひます。また、英語多読に取り組むための機会を提供し、生徒の自律的な学習を促進している取り組みも素晴らしい、今後もさらなる充実を図り、生徒たちの英語力の向上を支援していただくことを望みます。	
これからの若者にとり、英語力は必須であり、逆に英語を話せないことがデメリットとなる社会になりつつある。高校生の多感な時期にじっくりと多読を勧めて頂いたことで、言語の習得に加え、その先にある文化や外国人の思考といったものを感じられるものと思っており、本英語教育には保護者としても大変な難く感じております。	
生徒の自発的な学習の仕組みづくりは有効だと思ひますので継続をお願いします。	

学 校 自 己 評 価					2022年度 評 価 (2023年3月31日現在)		
2022年度 目 標					2022年度 評 価 (2023年3月31日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
					<p><b>【学問・研究の必要性】</b> <b>【選択科目】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文学特論では、エンターテインメントを文学史・哲学史と接続することで総合的に把握した。</li> <li>・社会Aでは、「日本文化基礎のキソ-五感で楽しむ日本の伝統文化」と題し、「まずは日本の伝統文化に実際に触れてみよう！」をキー・コンセプトとして変体仮名の解読演習や茶の湯の実習を中心に授業を展開した(変体仮名の解読演習についてはGoogle Classroomも活用した)。今年度は新たな試みとして、校内のチャノキを利用した茶摘み・製茶体験と、校内の筆柿を利用した干し柿の提供を行った。</li> <li>・社会Bでは、近代文明批評の名著であるオルテガの『大衆の反逆』を解説を交えながら通読し、思想書を精読するスキルの向上を目指した。また現代の国際情勢をオルテガの視点から考察するという課題にも取り組み、その成果の一部を収穫祭での各自のポスター展示発表を行った。</li> <li>・英語Aでは、「基礎英語」として英語が苦手な生徒に対して基礎力の確認をした。基本的な語彙や文法の確認をすとともに、昔話などのやさしい英文を読むことで、英語に対する苦手意識をなくすように努めた。</li> <li>・英語Bでは、1・2年で実施してきた多読・多聴を集中して行った。3年間で平均読書冊数571冊、平均読語数92万語となった。インプットが飽和量に達した生徒は、楽しく読めるようになるだけでなく、ライティングにおける流暢性も向上した。</li> <li>・英語Cでは、西洋の哲学者や思想家について書かれた文章を読み、生徒個人によるプレゼンテーションや議論を中心とした授業を行った。生徒にとってあまり馴染みのないテーマが中心だったが、プレゼンテーションや議論のために精読することが求められた。結果的には、それがより生徒の理解を深め、知見を広めることにつながった。</li> <li>・数学教育に関して、2009年度より高大連携教育の一環として行なわれている、本塾大学理工学部の数学の授業(学部1年生対象)が聴講できる制度は、3年ぶりに開催され大学で学ぶ機会を得ることができた。</li> <li>・2014年度より高大連携教育の一環として行われている、本塾大学文学部日吉キャンパス設置科目(一部)の履修制度(第3学年次に履修後、文学部進学の場合は卒業単位に含まれる)について、3年ぶりに復活した今年度は、第3学年延べ7名が履修し、熱心に受講した。</li> </ul> <p><b>【総合的な探究の時間】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24言語の「ことばと文化」を通して、各国の文化、伝統や言語を学ぶ機会が多くあった。</li> </ul> <p><b>【語学課外講座】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位とは関係のない語学課外講座においても、履修者数は7限95名、8限33名で約15%の生徒が学びを深めた。</li> </ul> <p><b>【全体的な学習環境の充実】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年、主にオンライン・オンデマンドなどのスタイルで実施されていた本校主催による学部説明会や、本塾大学各学部主催による説明会・見学会などの行事が対面でも実施された。</li> <li>・『志木高案内』2022年度版を新規に作成し、生徒の学校生活における利便性の向上に努めた。</li> <li>・「災害対応に関する教職員マニュアル」2022年度版を整備し、緊急対応の体制を充実させた。</li> <li>・『研究紀要』第53輯、『ことばと文化』第27号を発行し、教育・研究の発表の場とした。</li> </ul>		<p>次年度への課題と改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各講座の特徴をより効果的にアピールし、総合的な探究の時間では様々な未知の言語・文化との出会いを、課外講座ではより専門的なことがらにふれる機会を提供する。</li> <li>・卒業後の進路について考える機会を増やす。</li> </ul>
2	現在の生徒数による教育の長所を生かし、教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育を行う。	教員と生徒との人間的接触につとめながら個性と能力をのばす特色ある教育の実践	・精神面においては、クラス担任のみならず全教職員、医師、スクールカウンセラーによるきめ細かい指導の実践	・教員会議において生徒の現況の情報共有化を図り、と協力体制を構築する。	<p><b>【特色ある教育】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オーストラリアのToowoomba Grammar School、フィンランドのLuostariyuoren Lyseon Lukioとの国際交流(短期交換留学)、アメリカ、ハワイ州のPunahou SchoolにおけるSGLI(Student Global Leadership Institute)は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大や不安な世界情勢の影響を受けて中止となった。</li> <li>・台湾のWego Private Bilingual Senior High Schoolとの国際交流は短期留学という形では行えなかったが、夏から秋にかけて、オンラインで交流し収穫祭や2022年12月の第133回志木演説会で成果報告を行なった。</li> </ul> <p>・2011年度より理科教育の一環として長野県諏訪市～新潟県糸魚川市周辺において、水質調査やジオパークの見学等、生物・化学・地学・物理の実習を行なっている。今年度は新型コロナウイルス感染症対応として、パスの使用台数、宿泊先の部屋数の追加により密度の低減に努めた。訪問地は本来の諏訪、糸魚川に戻した。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Toowoomba Grammar School、Wego Private Bilingual Senior High School、及びLuostariyuoren Lukioとの国際交流事業の再開に向けて検討を行なう。</li> <li>・SGLIを通じて、英語が得意な生徒の意欲・能力をさらに高める。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日 2023年5月6日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
英語の4技能をしっかりと定着させる授業内容に感謝しております。	
<p>高校生にして、大学の勉強に先んじて触れる機会を頂いたことで、今後の学習がイメージしやすくなり大変有効であったと思います。不確実性の高い世の中であればこそ、大学の学習までを含め俯瞰的に見渡せるカリキュラムは高校生にとり極めて有益と思います。</p> <p>高大連携教育の機会は、知識の習得のほか、高校生の時期での様々な興味の深堀り、進路を考えるきっかけとなると思いますので、ぜひ拡大方向で検討をお願いします。</p> <p>24言語の学習の機会は、世界各地への興味を広げる機会になると思いますので継続していただきたいと思います。</p> <p>昨年と比べて履修人数が減っているようですが、学校の特色である「24言語のことばと文化を通して、各国の文化、伝統や言語を学ぶ」機会は非常に貴重だと考えています。もっと多くの生徒が参加しやすいような工夫をお願いしたいと思います。</p> <p>コロナ対策を最優先としながらも、その中で何が出来るか、どうしたら元の日常に近いカリキュラムを生徒に提供出来るか、学校側で日々検討・ご尽力頂いた結果、左記のような対面での各種行事が実現したと思います。保護者として感謝申し上げます。</p> <p>利便性の向上に資していると思います。</p> <p>興味深く拝読いたしました。継続をお願いします。</p>	
状況次第ではありますが、早期の再開を希望します。	
<p>コロナ禍の影響でオンラインでの交流となりましたが、息子からは異文化に対する興味関心がさらに強まったとのこと。また、第133回志木演説会での成果発表で多くの学びを得たと思います。今年度は短期留学が実現することを願っています。</p> <p>台湾のWego Private Bilingual Senior High Schoolとの国際交流に愚息が参加させて頂いたが、愚息の成長の機会となり、大変有意義な時を過ごさせて頂いたと感じております。国際交流の機会は今後も是非継続頂きたく、更なる拡充も視野にご検討頂ければ、志木高生との更なる成長に繋がるものと思います。</p> <p>オンラインという形でも開催できたことはよかったです。ただし、国際交流は対面で行った方が効果が高いと思いますので、対面による再開を希望いたします。</p> <p>コロナ禍で大変難しい判断を迫られていらっしゃったものと思いますが、左記の理科研修実現に向けた学校関係者の皆様のご尽力に敬意を表したいと思います。保護者としては、理科学習に旅行の要素も取り入れて頂いたことは、生徒の一生の思い出の1ページになると思います。</p>	

学 校 自 己 評 価						
2022年度 目 標			2022年度 評 価 (2023年3月31日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標		
			評価項目の達成状況	達成度		
			次年度への課題と改善策			
				<p>【ストレスケア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、教職員・医師（校医、精神科医）・カウンセラーらがチームとなって、様々な問題を抱えている生徒に対応している。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、生徒の心身への影響が懸念される中、夏季休業中のカウンセリングルームの開室日数を増やし、緊急事態にも対応できるよう配慮した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校生徒にみられる精神的成長（その過程で生じる不安感や悩みなども含む）の特徴を調査・分析し、今後の教育活動に活かす。</li> </ul>	
3	生徒を多様な学校行事とクラブ活動等に参加させることにより、良好な人間関係や規範意識を育成し、積極的に心身の健康の増進を図り、リーダーシップを培う教育を行う。	生徒が自主的に学校行事、各人に適したスポーツ、アート、リサーチ、各種のプロジェクト等に参加するための指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任会、生活委員会、体育部会・文化部会等においてきめ細かい指導方針の確立と実践</li> <li>・学校行事、体育系・文化系クラブ活動の選択肢の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR活動、生徒会活動、体育系・文化系クラブ活動における適正な指導を図る。</li> </ul>	<p>【多様な学校行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例年5月に2泊3日で実施している1年生研修旅行（コロナ禍のため2020・2021年度は実施せず）は、3日間の日帰り研修として実施し、各教科の興味・関心を喚起するとともに、生徒間の親睦を深める機会とした。3日間のうち、1日は東京国立博物館で特別展「琉球」を見学（地理総合）、1日は班別の史跡・ミュージアム自主研修（歴史総合）、1日は三浦半島で浄楽寺と小網代の森をクラス毎に見学した（歴史総合・物理基礎）。</li> <li>・生徒向けにBLS講習会を実施し、日常生活の中での健康危機に即座に対応できるように努めた。</li> <li>・例年、学校行事を催すにあたっては、生徒の自主的な活動をサポートする形で、自己表現と団結の時間・場所を共有することに努めている。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け入場者数を制限しつつ、収穫祭（文化祭）は外部者も受け入れる形で開催した。また、オンラインでの公開も併せて行った。</li> <li>・運動会については、昨年同様規模を縮小し感染対策を行いながら準備をしていたが予備日も含め雨天が続き中止となった。</li> <li>・4年ぶりにマラソン大会を荒川彩湖公園にて実施（3年前は台風、直近2年は新型コロナウイルス感染症による中止）することができた。全体・学年ごとに集計をした。上位3名までを表彰した。</li> <li>・感染対策を行いながら、7月と11・12月（1・2年生のみ、3年生は延期された期末試験日となりクラスマッチは中止）にクラスマッチを実施した。</li> <li>・7月、慶應義塾三田キャンパス西校舎ホールで、本塾大学教授である河野武司氏を招いて、第132回志木演説会を開催した。「代議制民主主義の機能不全とカウンター・デモクラシー」という演題で、憲法・選挙・政治にからめてお話を頂いた。</li> <li>・9月、コロナ禍で2年間取りやめていた県外への3年見学旅行について、事前の入念な下見と感染対策を徹底し、保護者・生徒の理解と協力のもと、東北への見学旅行を実施することができた。理科・社会科・国語科の教科学習とも連動した総合的探究に結び付く行程の中で、生きた学びの場を実感できた。</li> <li>・12月、慶應義塾三田キャンパス西校舎ホールで、ビジネスプロデューサー、クリエイティブディレクターとして活躍中の谷中修吾氏を招いて、第133回志木演説会を開催した。「イノベーターの超絶まちづくり」という演題で、ご自身の実践をまじえてお話を頂いた。</li> </ul> <p>【生徒会活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の一環として、正門前や校内で「緑の羽根募金」を新型コロナウイルス感染症対策を行いながら実施した。</li> </ul> <p>【クラブ活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、保健室のアドバイスを得て、感染予防を第一にしつつ、各クラブの特性にも配慮しながら、可能な活動のあり方を模索した。</li> <li>・水泳部が関東高等学校水泳競技大会に7名出場した。</li> <li>・水泳部が全国高等学校水泳競技大会に7名出場した。</li> <li>・器楽部が埼玉県代表として「第28回西関東吹奏楽コンクール」（9月11日、新潟市民芸術文化会館）に出場、「バンドのためのバレエ（マクティーン作曲）」を演奏し銀賞を受賞、「第28回日本管楽合奏コンテスト全国大会・高等学校A部門」（11月6日、松戸市文化会館）にも同曲を演奏して出場し「最優秀賞」を受賞、また「審査員特別賞」も合わせて受賞した。この大会は全国から録音審査にて選出された32校が演奏を競う大会であり、器楽部は2019年度まで過去10回ほど出場していたが、コロナ禍に伴う様々な事情により出場が叶わなくなり、今年度は3年ぶりの出場であった。</li> <li>電子工学研究会の中で、2021年度にロボット大会への出場を目指して結成したロボット班が、RoboCupJunior Japan 2023 埼玉ブロック大会のサッカーリーグにおいて2位の成績を残し、全国大会にあたる RoboCupJunior Japan Open 2023 Nagoyaに出場した。</li> <li>・端艇部が関東大会5位（M2X：男子ダブルスカル）、インターハイ県予選優勝（M4X+：男子舵手付きクォドルプル）・3位（M2X、M1X：男子シングルスカル）、県新人戦2位（M4X+）・3位（M2X）、関東選抜大会4位（M4X+）の戦績を収めた。また、四国総体2022（インターハイ）にM4X+の種目で埼玉県代表として出場し（2年連続）、準々決勝進出を果たした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康管理を徹底する。</li> <li>・体育行事については、社会状況を注視しつつ、保健室と連携して実施可能な形態について検討する。</li> <li>・収穫祭については、生徒の自主性を尊重しつつ、開催のあり方についてあらためて検討する。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日 2023年5月6日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
担任の先生やカウンセラー、医師の方々が親身になって悩みを聞いてくださる環境があり、学校での時間を楽しく過ごすことができました。学校での生活を安心感を持って取り組むことができました。	様々な想定に基づいた対応、感謝いたします。
社会状況が許せば、研修旅行・見学旅行等、学外行事は早期に例年の日程に戻していただくよう、お願いいたします。	学校や教職員の皆様のお力添えにより、自ら考え、参加できた収穫祭は大変有意義な学びの機会となりました。初めての収穫祭がコロナ前に近い形で実現し、心から感謝しています。
外部者も受け入れる形式での収穫祭開催は、特に3月に卒業した3年生にとって一生の思い出になるものと思料、コロナ禍で学校生活の思い出が限られた学年であったこともあり、学校の英断に感謝しております。	収穫祭も学外行事と同様、コロナ以前の体制対応に戻していただきたいと思います。中学生に志木高自体、志木高のクラブ活動等に興味を持ってもらう良い機会だと思います。
慶應義塾ならではの、有意義な講演を聴講する機会を頂き、生徒にとっては色々将来を考える上でのヒントになったものと思います。	志木演説会は活きた社会の話を聞くことのできる良い機会ですので、今後も継続をお願いいたします。
コロナ禍により、3年生は1年次の前半、クラブ活動を実施できなかったにもかかわらず、各部とも頑張って活動されたと思います。	
吹奏楽コンクールは審査も含め残念な結果となりましたが、管楽合奏コンテストで良い結果を収めることができました。関係の皆様には感謝申し上げます。	
	・各クラブ活動の様子をウェブサイトなどに掲載し、情報を充実させる。

学 校 自 己 評 価				
2022年度 目 標				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
4	ホームページ等で情報を有効に発信し、学校行事、学校施設等を開放するとともに、本校生徒が小学校、中学校、養老施設等を訪問し、交流を図る。	家庭、地域社会に対する積極的な情報の発信、オープンキャンパスの実施、生徒の積極的な地域活動への参加	・各委員会の連携と内容の充実	・教員会議において活動状況の情報共有化と協力体制を図る。
2022年度 評 価 (2023年3月31日現在)				
			評価項目の達成状況	達成度
			<p><b>【広報活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『学校案内2023』を刊行した。</li> <li>公式ウェブサイトおよびFacebook・Twitterのアカウントを引き続き活用し、情報の提供に努めた。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、PTA総会をHR棟各クラスに分散して校内放送で実施した。</li> <li>保護者会については7月・12月とも2・3年生と1年生、学年単位で時差開催とした。</li> <li>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2020年3月から中止していた学校見学は、外部イベント予約サイトを利用した事前申し込み制で、10月から再開した。</li> <li>本校主催の学校説明会は、外部イベント予約サイトを利用した事前申し込み制で、11月に3年ぶりに対面で開催した。また、参加できなかった受験生・保護者のため、当日撮影した動画を本校ウェブサイトで公開した。</li> <li>入試については、昨年度新たに導入した外部インターネット出願サイトおよび合否確認サイトを今年度も継続して利用した。</li> </ul> <p><b>【授業に絡めた地域理解】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各種小論文コンクール等への参加や出品を、積極的に行った。</li> </ul> <p><b>【クラブ活動を通じた地域交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は12月、特別養護老人ホーム「草加キングスガーデン」において、入所者、ご家族、職員の皆様のための「クリスマス会」に参加した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、録画による演奏と、団員からの応援メッセージを多くの方々にご覧いただいた。</li> <li>ワグネル・ソサイエティー男声合唱団は、2023年3月22日（水）に新座市民会館において第15回定期演奏会を開催した。コロナウイルス感染症対策をしっかりと行った上で観客にお越しいただいた。</li> <li>器楽部が「第24回定期演奏会」（3月21日、志木市民会館）を開催した。4年ぶりの一般公開となり、2公演で1500名の観客が来場した。</li> </ul> <p><b>【学校行事を通じた地域交流】</b></p> <p><b>【学校施設を利用した地域交流】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例年、近隣（志木市、朝霞市、新座市）在住の方々を対象とした校内自然観察会を5月と9月の2度開催しているが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、2回とも中止とした。</li> <li>例年、近隣小学校および保育所に本校の敷地を一部開放し、どんぐり拾い等の行事に供しているが、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。</li> <li>年に数回近隣のラグビースクールにラグビー場を使用してもらっている。</li> </ul> <p><b>【地域との交流】</b></p> <p>志木市立の中学在籍生徒に対する勉強支援事業「志木市ベーシックサポート事業」に、本校から多くの生徒が有償ボランティアとして参加した。今年度から始まった志木市の事業で、夏休み期間と秋の二回実施された。受講した中学生からも好評をいただき、複数のメディアでも好意的に取り上げられた。</p> <p><b>【学校いじめ防止基本方針に基づく取組】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止基本方針に基づく調査を実施し、教員会議において複数回議論を行なった。また、今年度も学校自己評価と併せて校内掲示にて周知した。</li> </ul>	<p>・公式ウェブサイトにおいて、クラブ活動の戦績紹介・活動報告等をより積極的に行えるよう、仕組みづくりを検討する。</p> <p>・各種コンクール・コンテストなどへの個人・グループでの応募を積極的に奨励していく。</p> <p>・OBや一般市民向けの本校教員による公開講座実施などの可能性の検討が望まれる。</p> <p>・本校の恵まれた自然環境を生かして地域にオープンにしていく工夫を学校全体として議論していきたい。将来的にはなるべく早く多目的棟を建設し、本校が地域の文化的拠点となるような方向で設備を整理していくことを考えるべきである。</p> <p>・学校施設の地域社会への開放について、今後も検討を行う。</p>

学校関係者評価	
実施日 2023年5月6日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>PTA総会や保護者会が円滑に進行できたことには、学校や先生方の工夫のおかげがあります。おかげさまで、PTA総会や保護者会が順調に進行しました。学校や先生方のご尽力に、感謝申し上げます。</p> <p>医学部を持つ慶應義塾ならではのと思いますが、専門の校医が常駐している環境にコロナ禍であっても保護者として大変安心感があります。</p> <p>PTAや保護者向け行事の運営に工夫をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>志木高の方針や特色を中学生やその保護者の方々、ほか外部の方に理解いただくため、学校見学や下記にある学校公開、地域行事を引き続き重視し、志木高のアピールの場にしていただきたいと思います。</p> <p>積極的なデジタル化・デジタルの導入推進は、学校のイメージ向上にも貢献すると思います。またデジタル分野を含め生徒の学習内容の更なる拡充に向け引き続きご検討頂ければと思います。</p> <p>クラブ活動を通して地域交流は、クラブ側の動機付けにもなる形で継続いただきたいと思います。</p> <p>器楽部の一般公開で1,500名の方が来場されたことで、志木高の地域への浸透ぶりがわかります。クラブ活動のみならず、教職員の研究（ジオパークに関するフィールドワーク、志木の森関連、研究紀要に発表のものなど）を効率的に紹介することで、地域交流や受験いただける生徒の掘り起こしになるかと思います。</p> <p>地域交流、地域との共存、地域貢献等は、生徒の人格形成にも寄与すると思いますので、是非継続してほしいと思います。</p> <p>生徒たちが志木市の勉強支援事業に有償ボランティアとして参加し、受講生からの好評を得るなど、社会的な貢献意識やスキルの向上を促す素晴らしい取り組みであると思います。今後も生徒たちの社会参加を支援し、地域との連携を深めることが望ましいと思っております。</p>	